

## 西アフリカにおける麻薬密輸ネットワーク ——イスラム主義勢力との共存関係

吉田敦（千葉商科大学）

### はじめに

世界貿易機関（World Trade Organization: WTO）によれば、世界の麻薬取引額は国際貿易額（年平均 4,000 兆ドル）の約 8% を占めるといわれている。この額は、世界における食料や石油の世界全体の貿易額に次いで大きい数字であり、麻薬取引額に続いて大きいのが武器の取引額となっている。麻薬取引の末端価格（street sales）は年間 3,000～5,000 億ドルに上る。移動・通信手段の近代化とグローバル化の進歩は、同時に違法薬物の消費と取引額の増大にもつながっている。さらに、麻薬の使用者および常用者数は、全世界で 2 億 4,700 万人にも達しており、人口比率（15 歳～64 歳）でいえば、全人口の 5.2% の人々がなんらかの違法薬物——主にカンナビス（大麻・ハッシシ）、アヘン、コカイン、覚せい剤——に手を染めていることになる。

世界で最も広く栽培され、使用者・常用者の数も最大 1 億 8,300 万人であるのが、カンナビスである。カンナビスは、モロッコをはじめとして、アフガニスタン、レバノン、インド、パキスタンなど 129 カ国での栽培が確認されており、2014 年の押収量は 7,267 トンに達した<sup>1</sup>。世界最大のカンナビス生産国であるモロッコでは、北部の沿海部から山岳地域（リーフ地域）にかけて広大な大麻畑が広がっており、モロッコ産の大麻は世界生産の 31% のシェアを占めている。欧州では毎年約 3,000 トンのカンナビスが消費されている。次いで、世界中で中毒者が増加している麻薬のひとつが、アヘンである。2014 年の押収量は 628 トン（アヘン、ヘロイン、モルヒネを含む）で、生産量は 7,730 トンに及び、その 8 割がアフガニスタンで栽培されている。アフガニスタン産ヘロインの最大の市場は東南アジアであるが、近年ではイランやトルコを經由してヨーロッパ主要国に密輸する「バルカンルート」と、ロシアなどに広がる「北方ルート」が利用されており、国連薬物犯罪事務所（United Nations Office on Drugs and Crime: UNODC）の報告書によれば、この「バルカンルート」を通じて形成されるドラッグマネーは年間 280 億ドルにも達するとされている<sup>2</sup>。

また、コカインも次節以降で概説するように、常習者数の増大が指摘されている。特に近年では、南米の原産地から西アフリカ・サヘル地域経由の密輸ルートが活性化している。そこで本稿では、コカインの西アフリカでの流通経路の変化を指摘するとともに、同地域で活動をするイスラム過激派との共存関係を検討してみたい。

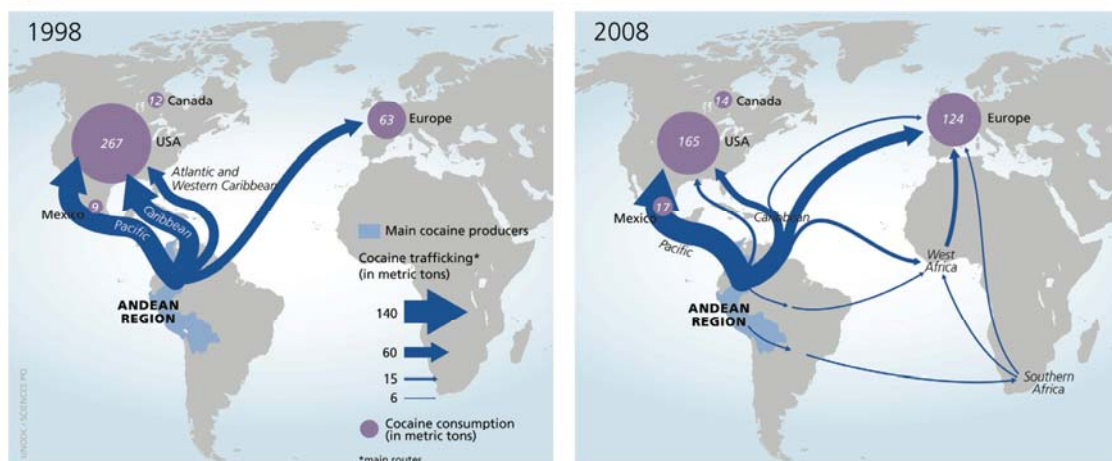
## 1. コカインのグローバルフローと欧州で激増するコカイン消費

コカインの原料となるコカの葉は、南米のボリビア、コロンビア、ペルーの3カ国ではほぼ全量が生産されており、2014年におけるコカインの生産量は746～943トンと推算されている<sup>3</sup>。コカインの常用者数は、世界に2,100万人ほどおり、最大のコカイン消費市場であるアメリカには514万人（世界の常用者数の25%に相当）の常習者が存在し、15歳以上の常習率はアメリカの人口の2%近くに達している。

アメリカの次にコカインの消費量が多いのが、ヨーロッパである。ヨーロッパにおけるコカイン常用者数は353万人と推算されており、アメリカに次いで、コカイン常用者が多い地域となっている。とりわけ「エントリー・ポイント」と呼ばれる地中海沿岸地域に属するスペインやイタリア、イギリスを中心にEU全体でコカインの常用者が増加傾向にある。EUにおける2009年のコカイン常用者のシェアは、イギリス23%、スペイン21%、イタリア19%であり、同3カ国だけでEU全体の3分の2を占めている。これにドイツ9%、フランス5%を加えるとEU全体の8割近くに達する。

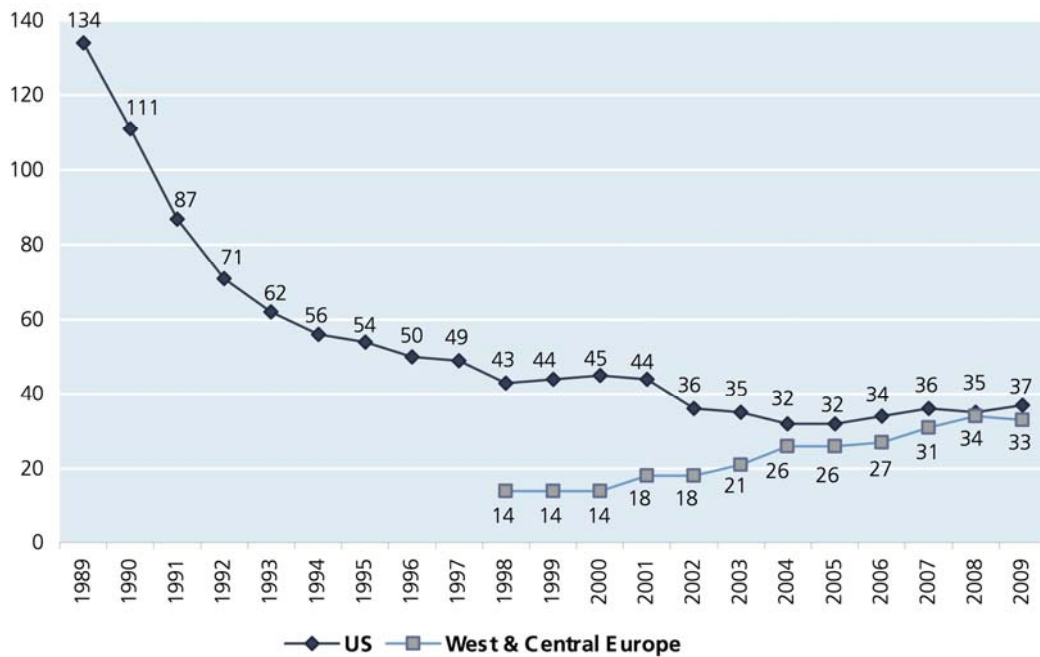
アメリカのコカイン消費量が世界最大であるのに変わりはないが、国際社会は2000年代後半にヨーロッパにおけるコカインの押収量が急激な増加をみせていることに警戒感を示しはじめている。図1にみられるように、アメリカでのコカイン押収量は、1998年の267トンから2008年には165トンへと減少している一方で、ヨーロッパでの同期間におけるコカイン押収量は63トンから124トンに倍増した。現在のトレンドが中期的に続くならば、アメリカを抜いて、ヨーロッパが世界最大のコカインの消費市場となる可能性も指摘されている<sup>4</sup>。また、図2に示しているのが、米国と欧州におけるコカイン市場の推移である。アメリカにおけるコカイン市場は1990年の1,110億ドルから2000年には半減し、2009年には370億ドルにまで低下しているのに対して、ヨーロッパ市場では1998年の140億ドルから2009年には330億ドルへと増加し、アメリカ市場と比肩する市場に成長していることがわかる。

図1 コカインのグローバルフローの変化（1998年、2008年）



Source: UNODC World Drug Report 2009 and UNODC calculations informed by US ONDCP, Cocaine Consumption Estimates Methodology, September 2008 (internal paper).

図2 米国と欧州のコカイン市場の推移 (1989~2009年) (単位: 10億ドル、2008年実質価格)



(出所) UNODC, *The Transatlantic Cocaine Market Research Paper*, 2011.

以上に加えて、麻薬という商品の特質上、最終消費市場に近づくにつれて、利益率は飛躍的に高まることを指摘しなければならない。西アフリカドラッグ委員会 (West Africa Commission on Drugs: WACD) の試算によれば、コカイン1キログラムの取引額は、原産地では2,700~4,000ドルであるが、サヘルの交易地では1万6,000ドルへと上昇し、更に欧州市場では4万~6万ドルで取引されている<sup>5</sup>。この試算が正しければ、原産地から消費市場へ運ばれた麻薬の利益率は約1,500%も高まることになる。また、国連によれば、ヨーロッパ最終市場での利益は200億ドルに達しているが、そのうち西アフリカの麻薬取引業者が得ている利益は全体の5~10%と推定されており、約20億ドルとなっている。

以上のような2000年代半ばから始まった欧州でのコカイン消費量の急増は、アンデス諸国を起点とする西半球におけるコカインのグローバルフロー、「麻薬地政学」に生じた構造変化が要因である。

## 2. 麻薬集散地としての西アフリカ沿岸地域

南米のコカイン取引業者は、北米市場での需要低迷、メキシコの麻薬カルテルの影響力拡大、カリブ海密輸ルートの実事実上の封鎖状態などに対応するために、西アフリカの政情不安や脆弱な法制度、よく整備された既存の密輸ネットワークを利用して、コカインの主要な輸出先を従来の北米市場からヨーロッパ市場へと戦略的にシフトさせようとしてきた

6. 南米に拠点をおくコカイン密輸業者は、これまでカリブ海諸国（ドミニカ共和国等）や中南米諸国（ブラジル、エクアドル、ベネズエラ）でネットワークを築いている密輸グループと共謀して、大西洋を横断する欧州への密輸ルートを利用していった。その際の輸送手段は、ボンバルディア・エアロスペース社の BD-700 などの高速ビジネスジェット、違法薬物を積載した母船で接近し、小型商船に振り分けて陸揚げするコンテナ貨物船や漁船、プライベートヨット、クルーザーなど多様な輸送手段を利用することで、当局の監視をくぐり抜け、ときには数トン単位のコカインをヨーロッパに直接持ち込む経路が存在していた。

### 3. 「コカイン航空」事件

マリ共和国の首都バマコから北東に 1,300 キロも離れた、人口 2 万人にも満たない小さな町タルキント（Tarkint）、この町のおびた滑走路から離陸したボーイング機が、北部に広がる砂漠地帯で残骸となって発見された。事故現場の砂漠地帯には、空になった燃料タンクが転がり、機体の一部は黒焦げとなって破損したまま放置されていた。当初の報道では「墜落」とされていたが、その後の調査と事故現場の状況から鑑みて、ボーイング機は不時着後に故意に破壊され、積み荷は何者かに持ち去られたことがわかった。パイロットや乗組員の遺体も発見されていない。事前に周到に計画された犯行であった。

同機のフライトプランは、南米ベネズエラ第二の都市マラカイボ（Maracaibo）を離陸した後、わずか 10 分後には管制塔からの応答を断っている。その後、カーボベルデへと航路を変更し、マリ北部のレーダーの届かない砂漠地帯で同機は忽然と姿を消した。航空機の機体につけられた国籍記号から、ギニアビサウで登録された機体と判明し、積み込まれていたのは推定 10 トンもの南米産コカインであることが明らかとなった。

コカイン 10 トンは、末端価格で 3 億ユーロ（日本円で 300 億円）にも達する。この事件は、「コカイン航空」事件として、欧米で大きく報道された。無論、「コカイン航空」という名の航空会社は存在しないが、想像を超えた量の麻薬が、南米のコカイン生産地でボーイング機に積み込まれ、ヨーロッパ各地に持ち込むために、人知れず、砂漠の真ん中に破棄されたのである。

フランスの国営放送社（Radio France Internationale: RFI）のマリ特派員セルジュ・ダニエル（Serge Daniel）は、著書『マリのマフィア (Les mafias du Mali)』のなかで事件取材し、その真相に迫っている<sup>7</sup>。同書によれば、積載されていた 10 トンものコカインは 4 つに分割され、それぞれ、アルジェリア、マリ内陸の砂漠地帯、マリ南部、ニジェール国境へと運び去られた。バラバラの方向に持ち去られたコカインの最終的な目的地は巨大な麻薬市場として成長しつつあるヨーロッパである。

半年後、モロッコ警察は密売に関わった 34 人を逮捕・収監し、大型長距離輸送機で大量

の cocaïne を運ぶという大胆不敵な犯罪を実行した麻薬の密売組織の解体を発表した。だが、逮捕され、実刑判決を受けたのは密売組織の末端に属する実行部隊であって、事件の立案、航空機・運搬車輛の手配などに関わっていた中核メンバーのほとんどは捕まっていない。特に、事件の中心となったスペイン国籍の数名で構成されるグループや、スペイン麻薬取締局から国際指名手配されているミグエル・デヴェーサ (Miguel Devesa) は、マリ警察により殺人容疑でも起訴されつつも執行猶予の判決を得て、いままバマコで何不自由のない生活を送っていると言われている。さらに、10 トンの cocaïne を輸送する際に、便宜を図ったとされるマリ政府の閣僚・閣臣等政府関係者や空港の管制官、市長、換金の目的で関与した金鉱山経営者等の逮捕もされていないことが分かっている<sup>8</sup>。

この「cocaïne 航空」事件は、その規模と計画の大胆さゆえに大きく報道された。しかし、これはあくまで西アフリカ地域一帯で蔓延している麻薬の組織犯罪の氷山の一角に過ぎない。西アフリカは 2000 年代後半以降、ヨーロッパ市場向けの麻薬取引の中継地となっており、次々と大規模な cocaïne の押収事件が発覚している。陸揚げされた大量の cocaïne は、西アフリカ沿岸諸国で集積され、網の目のようにはり巡らされた密輸経路を辿って輸送されており、麻薬犯罪組織と政府関係者・軍部の共謀関係も指摘されている<sup>9</sup>。

#### 4. 西アフリカにおける麻薬ネットワークの形成

1990 年代、ナイジェリアの犯罪組織ネットワークは、数々の密輸手法を「開発」し、洗練された手法を駆使するようになった。世界中に離散したナイジェリア人 (diaspora) のグローバルなネットワークを利用するその密輸手法は、0.5~25 キロ程度の小規模の麻薬輸送を得意とし、世界中のあらゆる市場にドラッグを「即座に供給」(express delivery) することを可能にしていた。ナイジェリア人麻薬組織が開発し、世界的に普及した代表的な密輸手法のひとつが、小分けにした cocaïne をラテックス製ゴムやコンドームに袋詰めにして飲み込み、航空機に搭乗して目的地まで運ぶ方法である。このような「運び屋 (mule)」たちは「スワロワー (swallower)」と呼ばれ、ときには 2 キロ近くの cocaïne を飲み込み、体内で破裂するリスクを犯してでも生活の糧を得ようとする。

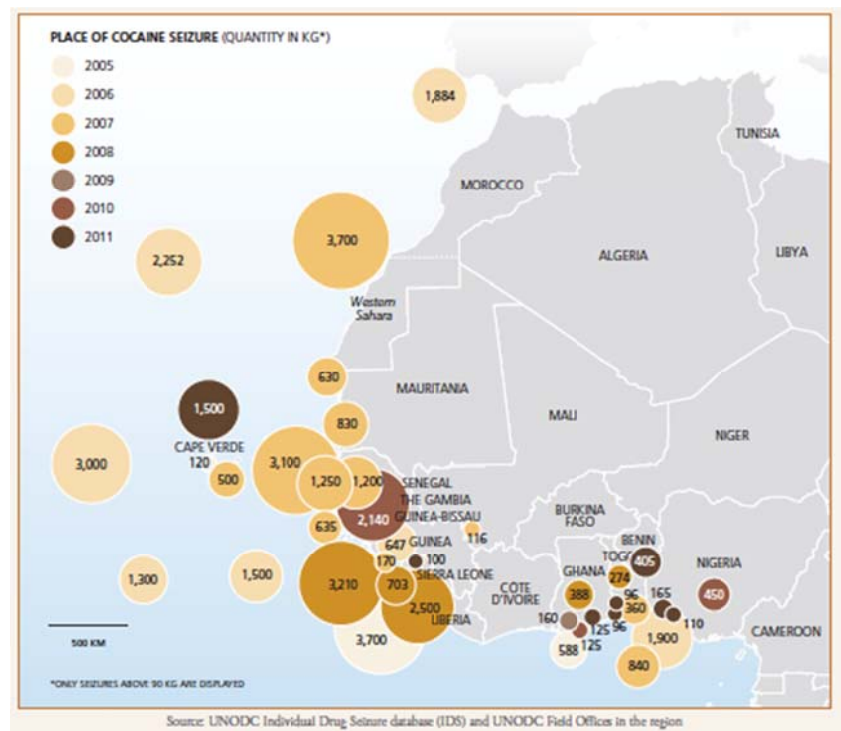
1990 年代末には、南米の cocaïne 密輸業者は、北米に代わる新たな市場としてのヨーロッパに着目するようになる。すでにみたように北米市場における麻薬取締強化や需要の低迷が原因である。南米の cocaïne 密輸業者は、古くから関係を構築してきたナイジェリアの犯罪組織ネットワークとは別に、ギニアビサウなどの新たな麻薬取引業者との接触し信頼構築を図ることで、欧州市場への安定的な供給ルートの開発に乗り出した。

当初、西アフリカにおけるエントリーポイントは、かつて奴隷貿易の中継地であり、西アフリカの西方洋上に浮かぶ島国であるカーボベルデ共和国や、スペイン領のカナリア諸島 (7 つの島からなる群島) が選択された。これらの国は複数の島嶼で構成されているた

め、密輸に適した地理的特質を備えていた。西アフリカを中継地とするコカインの密輸が増加していくにつれて、その他の大西洋に面した西アフリカの沿岸諸国、すなわちモーリタニア、セネガル、ギニアビサウ、シエラレオネ、リベリア、ガーナなどの諸国も麻薬の集散地として利用されるようになっていった。

図3に示したのが、UNODCの発表している2005～2011年の西アフリカにおけるコカイン押収量の地理的分布である。

図3 西アフリカにおけるコカイン押収量 (2005～2011年)



(出所) UNODC, *Transnational Organized Crime in West Africa: A Threat Assessment*, Vienna, UNODC, 2013.

図3のなかで特に年間押収量が多い諸国が、2010年ギニアビサウの2140キロ、2008年リベリア2500トン、カーボベルデ1500キロなどである。

以下に示す通り、西アフリカ沿岸諸国では、南米からの「ハイウェイ10」(北緯10度線)を經由した3つのコカイン集散地 (stockpiling and redistribution) が形成されている。

北部ハブ	大西洋沿岸諸国 (ギニアビサウ、ギニア、ガンビア、セネガル、カーボベルデ)
南部ハブ	ギニア湾沿岸諸国 (ナイジェリア、ベナン、トーゴ、ガーナ)
東部ハブ	マリ、モーリタニア東部 (内陸の中継地)

以上のハブから、西サハラ内陸における密輸ルート、あるいはサヘル地域内陸部には主要な交易地であるマリのキダル、ガオ、ニジェールのアガデスを通じて、目的地であるヨーロッパ市場に向けて北上する闇ルートが形成されている。

例えば、ギニアビサウ、ギニア、モーリタニア等の北部ハブから陸揚げされたコカインは、一度マリのキダルを経由して、アルジェリアに運ばれる「ショートルート」、あるいは、ニジェール北部からチャドを経由してエジプト、スーダンに抜ける「ロングルート」の2つのルートに分岐する。「ロングルート」にはニジェールのアガデスからの密輸も合流される。

エジプトには、東部ハブから運ばれてきた麻薬だけではなく、タバコを含む様々な非法商品も集結し、ヨーロッパをはじめ中東、アジアへのアクセスポイントとしての役割も果している。また、2011年のカダフィ政権崩壊以降、リビア南部が事実上、無政府状態に陥っており、リビアを北上する新たな「リビア・ハイウェイ」も主要密輸ルートとなっている。

麻薬密輸業者は、密輸・販売により適した土地へのいわば「事業移転」とより「安全な輸送経路の変更」を常に繰り返すことで、違法薬物から生まれる莫大な利益を手に入れる。ただし、そのルートが選択される基準は、通常のビジネス展開とは異なる要因が働く。クーデタが多発するなどの政治的な不安定性を抱えていたり、内戦により政府による領土の統治が不完全であればあるほど、非合法ビジネスに関与するコカイン密輸業者にとっては、より事業に適した土地ということになる。すなわち、サヘル地域でのイスラム主義勢力の拡散と領域支配や、2012年初頭に発生した「アザワド解放民族運動 (National Movement for the Liberation of Azawad: MNLA)」によるマリ北部での内戦と政治的混乱は、イスラム過激派、反政府武装勢力だけでなく、麻薬密輸業者や国際犯罪組織にとっての「聖域」を生み出すことになった。

### おわりに——麻薬とイスラム主義勢力との共謀関係

西アフリカにおける麻薬国家の出現とサヘルでの密輸ルートの形成、そして当該地域で活動するテロ組織との共謀関係の構築は、サヘル地域の更なる不安定性の増幅と紛争地帯の広域化（波及効果）という悪循環を生み出している。

2012年2月、国連安保理は「国際犯罪組織による西アフリカ及びサヘル地域における平和、治安、安定への影響」と題された以下のような議長声明を発表した。

「国連安保理は、世界の様々な地域のなかでも特に西アフリカ及びサヘル地域で確認される国際平和と安定にとっての重大な脅威について強い懸念を表明する。この脅威は、国際的な組織犯罪によって引き起こされているものであり、違法な武器取引、麻薬の<sup>トラフィッキング</sup>密輸、海賊および船舶に対する武装強盗、テロリズムが含まれている。特に国際犯罪組織と麻薬



の密輸との関連が強まっていることを警戒すべきである」<sup>10</sup>。

麻薬の密売から生じるレント収益は、国際犯罪組織のみならず、イスラム過激派や武装勢力との相互依存関係／共謀、資金源に結びついており、この「ナルコ・テロリズム (narcoterrorism)」が地域の安定の甚大な脅威を生み出している。ただし、「ナルコ・テロリズム」という用語に関してはさらなる精確な分析が必要とされている。欧州安全保障研究所 (European Union Institute for Security Studies: EUISS) によれば、「イスラーム・マグリブ諸国のアル=カーイダ (Al-Qaeda in the Islamic Maghreb: AQIM)」がマリ北部を支配下において以降、密輸業者が通過する毎に 10% 程度の通行料を徴収しているのは事実であるが、AQIM が直接に通行料を徴収しているのではなく、AQIM と関係が近い民兵組織が関与していると推定されている。同研究所の専門家は、『ナルコ・テロリズム』という言葉は幻想である。麻薬密売とテロは同時に生じている現象ではあるが、その対策は別々に講じる必要がある。『ナルコ・テロリズム』という言葉には、麻薬密売人 (ディーラー) とテロリストが相互不可分な関係を築きながら共有した目的を有していることが含まれる。このような意味において、サヘル地域ではいかなるナルコ・テロリスト組織も存在しないことを確認したい。そこにあるのは、麻薬密売人が自らの利益に即しているか、実践的な理由から、テロ組織との関係を深めているという事実だけである」と指摘する<sup>11</sup>。麻薬取引がイスラム主義勢力の資金源の一部となっていることは確かであるが、同時に検討すべき課題は、AQIM や「西アフリカ統一聖戦運動 (Movement for the Unity and Jihad in West Africa: MUJAO)」が身代金目当ての誘拐によって獲得してきた闇資金 (2008~2012 年間で 4,000~6,500 万ドルと推算) や、リビア政権崩壊後にサヘル地域に流入したとされる大量の武器が西アフリカ地域の政治的不安定性を更に加速化させていることである。

西アフリカおよびサヘル地域において現出している脆弱国家 (fragile state institutions)、ガバナンスや地域住民の脆さ (vulnerability) は、多面的 (multidimensional) な危機として捉える必要がある。本分析では、その一因としてサヘル地域でおこなわれている国境を超えた犯罪行為 (ドラッグ密輸) が当該地域の危機醸成の基盤の一部をなしていることを指摘した。

#### —注—

<sup>1</sup> UNODC, *World Drug Report 2016*, 2016, [<http://www.unodc.org/wdr2016/>]

<sup>2</sup> 「バルカン・ルート」はパキスタン、イラン、トルコ、ギリシア、ブルガリアなどのヨーロッパ南東部を通過して、西ヨーロッパ市場に入る。西ヨーロッパでの取引額は、アフガニスタンの GDP212 億ドルを上回る。UNODC, *Drug Money: the illicit proceeds of opiates trafficked on the Balkan route*, 2015, [[https://www.unodc.org/documents/data-and-analysis/Studies/IFF\\_report\\_2015\\_final\\_web.pdf](https://www.unodc.org/documents/data-and-analysis/Studies/IFF_report_2015_final_web.pdf)]

<sup>3</sup> 2000 年代半ばまで世界最大の生産国であったコロンビアでは、近年では生産量が減少して 680 トン (2005 年) から 309 トン (2012 年) まで減産しているが、ペルーやボリビアでの生産量の減少は実現していない。



<sup>4</sup> コカイン押収量の世界におけるシェアに関しても、1990年まで世界の約半分のコカインがアメリカで消費（46%）されていたが、2003年には27%にまで低下している。一方でヨーロッパでは、同期間に6%のシェアから14%にまで拡大している。UNODC, *World Drug Report 2015*, 2015, [http://www.unodc.org/wdr2015/]

<sup>5</sup> 麻薬の利益率との比較として、コーヒー価格は、原産国から最終消費市場において413%の増加である。WACD, *Not just in transit Drugs, the State and Society in West Africa*, 2014, [http://www.wacommissionondrugs.org/report/]

<sup>6</sup> Ellis, Stephen, “West Africa’s International Drug Trade”, *African Affairs*, 108(431), 2009, p.172. (エリス、ステファン、落合雄彦訳「西アフリカの国際ドラッグ取引」落合雄彦編著『アフリカ・ドラッグ考—交錯する生産・取引・乱用・文化・規制—』晃洋書房、2014年)

<sup>7</sup> Daniel, Serge, “Affaire <<Air Cocaïne>>”, *Les Mafias du Mali Trafics et terrorisme au Sahel*, Descartes & Cie, 2014, pp.27-44.

<sup>8</sup> Daniel, Serge, “Affaire <<Air Cocaïne>>”

<sup>9</sup> Lebovich, Andrew, “Mali’s Bad Trip: Field Notes from the West African Drug Trade”, *Foreign Policy*, March 15, 2013, [http://foreignpolicy.com/2013/03/15/malis-bad-trip/]

<sup>10</sup> United Nations Security Council, *S/PRST/2012/2*, February 21, 2012, [http://www.un.org/en/ga/search/view\_doc.asp?symbol=S/PRST/2012/2]

<sup>11</sup> Pellerin, Mathieu, “Narcoterrorism: Beyond the Myth”, Barrios, Cristina, and Tobias Koepf eds., *Re-Mapping the Sahel: Transnational Security Challenges and International Responses*, ISSUE Report, no.19, June 2014, p.25, [http://www.iss.europa.eu/uploads/media/Report\_19\_Sahel.pdf]